

「履歴書」「教育研究業績書」作成の手引き

「履歴書」「教育研究業績書」共通事項

- ① 様式は、学部／学科等の設置認可時に文部科学省に提出する様式に準じています。
必ずこの様式を使用して作成してください。
- ② 記入部分のフォント種類（原則として明朝体）とフォントサイズは変更しないでください。
- ③ 書類内に記入する年月日は、全て和暦で記入してください。
- ④ 学歴，職歴，各種業績に関する事項等は全て時系列で記入してください。

履歴書

- 「氏名」の欄については、印鑑登録証明書（印鑑登録証明書を有さない者については、旅券（パスポート））と同じ氏名を記入してください。なお、旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで本名を併記してください。
（記載例：通称名が山田太郎、本名が田中太郎の場合・・・【山田（田中）太郎】）
- 「生年月日（年齢）」の欄の年齢には、**令和6年4月1日時点**の満年齢を**和暦で**記入してください。
- 「現住所」欄には、郵便番号と現住所を都道府県名から正確に記入してください（アパート、マンション等名含む）。
- 「電話番号」欄、「e-mailアドレス」欄には連絡可能な電話番号と電子メールアドレスを記入してください。
- 「学歴」の欄について
 - 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む。）を有する場合、すべての学歴（授与された学位及び称号を含む。）を入学年月も含めて**和暦で**記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。
なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。
 - 学位については、**付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目**を併記してください。
例．「工学修士」，「修士（工学）」，「工学士」，「学士（工学）」など
なお、平成3年7月以降に授与された学位は「博士（〇〇）」，「修士（〇〇）」，「学士（〇〇）」となります。
 - 医師，歯科医師，薬剤師，看護師，教員等の資格についても記入してください。この場合，登録番号等も併記してください。外国における資格にあつては，正確に記入するとともに，その資格の内容を日本語で併記してください。
 - 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
 - 外国の大学等の経歴を記載する場合は，大学等の名称や学位等はアルファベットとカタカナを併記し，国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

《記入例》

学歴	
年 月	事 項
昭和 58 年 4 月	〇〇大学工学部△△学科 入学
昭和 62 年 3 月	〇〇大学工学部△△学科 卒業（工学士）
昭和 62 年 4 月	〇〇大学大学院工学研究科△△学専攻修士課程入学
平成元年 3 月	〇〇大学大学院工学研究科△△学専攻修士課程修了（工学修士）
平成元年 4 月	〇〇大学大学院工学研究科△△学専攻博士課程入学
平成 4 年 3 月	〇〇大学大学院工学研究科△△学専攻博士課程修了 博士（工学）（〇〇大学） 学位論文題目「～～と・・・に関する相互作用の研究」

6. 「職歴」の欄について

- ① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む。）を和暦にて時系列で記入するとともに、職名、地位等についても明記してください。
- ② 各職歴について在職期間を明確にし（行末のカッコ内に終了時の年月を和暦で記入）、現職については終了時の年月の代わりに（現在に至る）と記入してください。
- ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
- ④ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を行末に「 」で併記してください。

例．横浜国立大学大学院工学研究院教授（現在に至る）「〇〇論」

《記入例》

職 歴	
年 月	事 項
平成元年 4 月	横浜国立大学工学部非常勤講師（平成元年 9 月まで）「△△工学Ⅰ」
平成 4 年 4 月	横浜国立大学工学部講師（平成 6 年 3 月まで）「〇〇論」
平成 6 年 4 月	横浜国立大学工学部助教授（平成 13 年 3 月まで）「〇〇論」
平成 13 年 4 月	横浜国立大学大学院工学研究院助教授（平成〇〇年 3 月まで）「△△力学Ⅰ」
平成 19 年 4 月	横浜国立大学大学院工学研究院教授（現在に至る）「△△力学Ⅰ」

7. 「学会及び社会における活動等」の欄について

- ① 「現在所属している学会」には、書類提出時点において所属する学会の名称を記入してください。
- ② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。
- ③ 「事項」には、現在所属している学会と過去に所属していた学会のすべてについて、会員又は役職名を時系列で和暦で記入してください。

また、現在委嘱を受けている委員会等と過去に委嘱を受けた委員会等のすべてについて、委員又は役職名を記入してください。

なお、いずれの事項も、在職期間を明確にし（行末のカッコ内に終了時の年月を和暦で記入）、現職については終了時の年月の代わりに「現在に至る」と記入してください。

- ④ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

《記入例》

学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等	
現在所属している学会	日本〇〇学会，日本△△学会，□□学会，神奈川県〇〇協会
年 月	事 項
平成 14 年 6 月	日本〇〇学会 会員(現在に至る)
平成 14 年 6 月	静岡県〇〇協会 会員(現在に至る)
平成 15 年 4 月	日本△△学会 会員(現在に至る)
平成 16 年 1 月	日本××学会 会員(平成 17 年 12 月まで)
令和 2 年 4 月	神奈川県〇〇協会 委員(令和 3 年 3 月まで)
令和 3 年 4 月	☆☆市☆☆委員会 委員(令和 4 年 3 月まで)
令和 4 年 9 月	□□学会 会員 委員(令和 5 年 3 月まで)
令和 5 年 4 月	神奈川県〇〇協会 幹事(現在に至る)

8. 「賞罰」の欄について

- ① 学会や出版社からの表彰や職務上の表彰や懲戒処分，研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。
- ② 上記等の事項がない場合は、年月欄は無記入にし、事項欄に「なし」と記入してください。

9. 「現在の職務の状況」の欄について

①

- ア 「現在の職務の状況」の欄には、書類提出時点における職務の状況について記入してください。
- イ 「職名」については、大学等の教員の場合は、『教授』『准教授』等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、『取締役』『理事』等の職名を記入してください。職名が無い場合は『－』を記入してください。
- ウ 勤務状況については、**大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入してください。**それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入してください。

《記入例》

現 在 の 職 務 の 状 況			
勤 務 先	職名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
横浜国立大学	助教	理工学研究院	(理工学府) 高速気体力学，機械システム工学演習Ⅰ，機械システム工学演習Ⅱ，機械システム工学中核人材育成インターンシップ，機械システム工学学外実習 (理工学部) 力学演習Ⅱ，熱力学Ⅰ，熱力学Ⅱ，卒業研究 (教養教育科目) エネルギー工学序論

右の「勤務状況」での授業科目の記載は学部と大学院では区分して記載してください。

10. 「氏名」の欄は、印鑑登録証明書（印鑑登録証明書を有さない者については、旅券（パスポート））と同じ氏名を本人が自署のうえ、押印してください。なお、旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで本名を併記してください。

（記載例：通称名が山田太郎、本名が田中太郎の場合・・・【山田（田中）太郎】）

11. 当該教員が外国人である場合、母国語により記入して差し支えありません。この場合、訳文を添付してください。
12. 日付は、書類提出日とします。

教育研究業績書

1. この書類は、教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び主要な著書、学術論文等の業績について作成してください。

2. 年月日欄について
書類提出日とします。

3. 「氏名」の欄について

「氏名」の欄は、印鑑登録証明書（印鑑登録証明書を有さない者については、旅券（パスポート））と同じ氏名を本人が自署のうえ、押印してください。なお、旧姓等の通称名を使用している場合は（ ）書きで本名を併記してください。

（記載例：通称名が山田太郎、本名が田中太郎の場合・・・【山田（田中）太郎】）

4. 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」の欄について

①「研究分野」の欄には、科学研究費補助金応募の際に利用する「審査区分表」の小区分レベルの名称を用いて、研究分野の主なものを1つ以上3つ以内で記入してください。「研究内容のキーワード」の欄には、同表の小区分に付随する内容の例を参考に、研究内容を表すキーワードを1つ以上5つ以内で記入してください。なお、小区分レベルに該当がない場合は、表中のワードを参考に適宜記入してください。

科学研究費補助金の「審査区分表」については、以下の日本学術振興会のWebページを参照してください。）

【https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html】

5. 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」の欄について

① 「事項」の項には、各区分に該当する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。

② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を和暦で記入してください。

③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。

④ 「教育上の能力に関する事項」の例

ア 「1 教育方法の実践例」について

※高等教育機関において授業科目を担当している教員が、学生の理解促進のために工夫を凝らした分かりやすい授業を実施しているかを記入。

(例) 優れた教育方法の実践, ICTを活用した授業実践, ICT教育環境整備の経験, 学生の授業外における学習促進の取り組み, 講義内容のWebでの公開等。

イ 「2 作成した教科書, 教材」の例

※作成した教科書, 教材, 講義で教科書として使用している著書, 教材等の概要。

研究業績の「著書, 学術論文」との重複も可とするが, その場合は, 本項目の概要欄に(○頁「(番号と名称を記載)」を参照)と記すこと。

ウ 「3 教育上の能力に関する大学等の評価」

※教育上の取り組みに対して大学から特に高い評価を受けた場合のみ記入。

(例) 採用決定の際等における評価内容, 各大学における自己点検・評価での評価結果, 学生による授業評価, 教員による相互評価等の結果, 上記以外で学長, 学部長が行った評価

エ 「4 実務の経験を有する者についての特記事項」

※成果を上げた教育に関する取り組みを記入。

(例) 大学から受け入れた実習生等に対する指導歴(教育・保育実習, 企業実習等), 企業内教育, 大学公開講座, 社会教育講座の講師としての講義, シンポジウムにおける講演等の概要, 所属機関や関係機関等において行った職員・関係者等に対する講義・講習・指導, 海外等における留学, 調査研究経験等

オ 「5 その他」

※大学教育改善に関する団体等での活動の概要, 教育実績に対する表彰等
上記にとらわれず, 積極的に記載すること。

《記入例》

教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
「教育上の能力に関する事項」を年月日順(過去→現在)に簡潔に記入		それぞれ概要の欄は明確かつ簡潔に記入
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ①○○○○○○○○○○	平成○○年○○月～平成○○年○○月	×××××××××××××××××××× ×××××××××××××××××××× ××××××
②○○○○○○○○○○○○○○	平成○○年○○月～平成○○年○○月	×××××××××××××××××××× ××××××××××
「1. 教育方法の実践例」・・・記入上の注意点 概要欄に, ①教えた機関(大学名等), ②科目, ③常勤・非常勤の別などの記載とともに, 導入した独自の教育方法の実践例を記入 例 1 優れた教育方法の実践例, ICTを活用した授業実践例, 学生の授業外における学習促進のための取り組み, 講義内容のweb上での公開等 例 2 教育機関や社会人講座, 企業研修などでの教育経験		

2 作成した教科書，教材 ①○○○○○○○○○ ②○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	平成○○年○○ 月～平成○○年 ○○月 平成○○年○○ 月○○日	×××××××××××××××××××× ×××××××××××××××××××× ×× ×××××××××××××××××××× ×××××××××××
「2. 作成した教科書，教材」・・・記入上の注意点 作成した教科書，教材，講義で教科書として使用している著書，教材等の概要（後の「著書，学術論文」との重複も可。その場合は，本項目の概要欄に（○頁「（番号と名称を記載）」を参照）と表示）		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ①○○○○○○○○○○○○○○○○○	平成○○年○○ 月～平成○○年 ○○月	×××××××××××××××××××× ××××××××××××××××××××
「3. 教育上の能力に関する大学等の評価」・・・記入上の注意点 教育上の能力に関する客観的評価を記載 例 1 大学での自己点検・評価の一環として，教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容） 例 2 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価 例 3 学生による授業評価，教員同士の相互評価等 例 4 学外の評価機関等が行った評価 例 5 上記以外で学長，学部長が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ①○○○○○○○○○	平成○○年○○ 月～平成○○年 ○○月	×××××××××××××××××××× ×××××××
「4. 実務の経験を有する者についての特記事項」・・・記入上の注意点 成果を上げた教育に関する取り組みを記載 例 1 大学から受け入れた実習生に対する指導歴（教育・保育実習，企業実習等） 例 2 企業内教育，大学公開講座，社会教育講座の講師としての講義，シンポジウムにおける講演等の概要 例 3 その他，所属機関や関係機関等において行った講義，講習，職員・関係者等に対する指導，海外等における留学，調査研究経験等		
5 その他 ①○○○○○○○○○	平成○○年○○ 月～平成○○年 ○○月	×××××××××××××××××××× ××××××××××××××××××××
「5. その他」・・・記入上の注意点 1 から 4 に該当するもの以外の事項について幅広く記載（下記項目例を参照） 例 1 大学教育改善に関する団体等での活動の概要 例 2 教育実績に対する受賞歴等		

⑤ 「職務上の実績に関する事項」の例

ア 「1 資格, 免許」

- 医師, 歯科医師, 薬剤師, 看護師, 教員等の資格

イ 「2 特許等」

- 特許, 実用新案等

ウ 「3 実務の経験を有する者についての特記事項」の例

- 大学との共同研究
- 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- 各種審議会・行政委員会, 各種ADR等の委員
- 行政機関における調査官等
- 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- 調査研究, 留学, 海外事情調査等
- 上記を裏付ける報告書, 手引書, マニュアル, 雑誌等

エ 「4 外部資金獲得実績」の例

- 科学研究費補助金
- 各種競争的資金 等

オ 「5 その他」

- 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等
- 論文の引用実績等

⑥ 資格の証明書, 雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。

《記入例》

職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
「職務上の実績に関する事項」を年月日順（過去→現在）に簡潔に記載		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格, 免許 ①〇〇免許(免許番号 第12345号) ②△△免許(免許番号 第6786号)	平成〇〇年〇〇月〇〇日 平成〇〇年〇〇月〇〇日	
「1. 資格, 免許」・・・記入上の注意点 資格について, 特に関連すると思われるものについて記載		
2 特許等		なし
「2. 特許等」・・・記入上の注意点 特許や実用新案等について, 特に関連すると思われるものについて記載してください。		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ①〇〇株式会社〇〇部課長	平成〇〇年〇〇	〇〇部の課長として, 〇〇について調査

	月○日～ 平成○○年○○ 月○日	し、その結果を○○に発表した。
「3. 実務家教員についての特記事項」・・・記入上の注意点 実務経験の記載方法については、履歴書の「職歴」欄に記載した事項を中心に、下記の事項等を参考に記載 ①従事した期間 ②職務の内容（どのような職務について、どのような役割を果たしたか） ③成果、結果 （職務上の実績の項目例） ○企業、官公庁等の研究者の場合 ・開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要 ・大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要・成果・当該研究者の役割 ○その他、企業・団体等関係者 ・国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績 ○情報技術者関係の場合 ・コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴） ○マスコミ関係者の場合 ・執筆した記事の概要 ・作成した番組の概要 ○福祉その他社会活動の関係者の場合 ・参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位 ○スポーツ等実技関係者の場合 ・指導者としての経歴・実績・資格 ○芸術関係者の場合 ・作品の概要 ○博物館、美術館等関係者の場合 ・担当した展覧会の概要 ・執筆・監修した展覧会図録の概要 ○その他全般を通じて		
4 外部資金獲得実績 ①科学研究費○○○ ○○○○○○ ②日本学術振興会○○○ ○○○○○○	令和○○年度～ 令和○○年度 令和○○年度	令和○○年度：○○○○円 令和○○年度：○○○○円 ○○○○円
「4. 外部資金獲得実績」・・・記入上の注意点 過去に獲得した外部資金の実績資格について記載		
5 その他		
1～4に該当するもの以外の事項について幅広く記載		

6. 「研究業績等に関する事項」の欄について

- ① 「研究業績等に関する事項」には、**書類提出時において未発表のものは記入できません。ただし、未発行（未掲載）ではあるが、論文が採録決定済みであり、採録決定通知（写）を提出できる場合には、当該通知を添付した上で記入いただくことは可能です。**
- ② 「著書、学術論文等の名称」の項について
 - ア 研究等に関連する**主要な業績**を、「(著書)」、「(学術論文)」、「(その他)」の項目に適切に区分し、各業績を**発表順に通し番号**を付して記入してください。
 - イ 著書については、書名を記入してください。
 - ウ 学術論文については、国際学術雑誌、学会機関紙、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文、査読付き論文、その他の論文に区分して記入してください。**学位論文**についてはその旨（修士論文、博士論文、など）明記し、**査読付きの論文**については、題名の後に「(査読付)」と記載してください。
 - エ その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入してください。
- ③ 「著者」の項には、実際に公表されている著者の順で共著者を含めて著者のフルネームを記入してください。ただし、10名以上の著者がいる場合は、10名以外を「他20名」のように記載しても構いません。
- ④ 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を**和暦で**記入してください。
- ⑤ 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」の項について
 - ア 著書については、発行所を記入してください。
 - イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。
 - ウ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。

《記入例》

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項			
著 書 ， 学 術 論 文 等 の 名 称	著 者	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称
(著書)			
1 ○○学基礎	○○○○，	平成○年○月	○○書院
2 解説○○論（再掲）	△△△△	平成○年○月	△△出版
(学術論文)			
〈学位論文〉	○○○○		
1 ○○○における○○（修士論文）		平成○年○月	○○大学 ○○科○○専攻
〈査読付き論文〉			
1 ○○における○○○と○○の現状と課題（査読付）	○○○○， △△△△	平成○年○月	○○○研究 第8巻第2号
1 〈その他論文〉 ○○○における○○	△△△△， ○○○○	令和○年○月	○○研究
(その他)			
(寄 稿)			
1 「●●は△△であるということ」	○○○○	平成○年○月	主催：○○○○
2 「●●学とは」	○○○○	令和○年○月	主催：○○